

<書 評>

レネ・カリエ 著
荻島秀男 訳

カリエ博士の腰痛ガイド 正しい腰痛のなおしかた

大井淑雄（自治医大）

カリエ Renc Cailliet の痛みシリーズは各国で広く読まれているが、今回さらに彼の手によりもっとも普遍的疾患の一つの腰痛についての書が出版された。この書は専門医書というよりはむしろ一般人向けに役立つもので、平易に述べられている。大体カリエ自身は講義をする際にスライド映写を行わず黒板にチョークでおもしろい略図や絵を書きながら説明する独特のものであり、小生も以前受講したことがあるが、その特色は本書で生かされている。現在彼が小生と同じく国際腰椎学会（International Society for the Study of Lumbar Spine, ISSLS）のメン

バーでもあるので、よく知っており力作とを感じるものである。

定義的に腰痛をはじめに説明し、次に姿勢の問題に入る。日常生活動作上不利な姿勢とその予防策をバイオメカニックスの知識も織り混ぜながら話を進める。筋膜性、筋性というわれわれにもっとも近い腰痛疾患の解説の後に話題は神経痛つまり坐骨神経痛に移る。椎間板の機能解剖学と生体力学から説明が入り神経学的診断法とその所見の解析が述べられる。

こうしてみるともちろん一般人にも理解し易く書かれてはいるが結構程度の高い、整形外科医やリハビリ

テーション医にとって十分実際役立つ本であることが分かる。また実地診療においてわれわれが患者さんに説明するのにより参考となる書き方である。臨床検査、X線撮影そしてCTあるいはシンチと近代医学の検査法が述べられた後、治療の項に進む。そして予想されるとおり、運動療法による筋力増強の理論と必要性が詳しく書かれ、ついで手術、はては心理療法への紹介もある。

このように一般人でもこれだけ詳しい知識を得るとはわれわれ医師もうかうか出来ぬなどと思う一方で、明日から外来に置いておこうと考えているところである。訳者は荻島秀男氏、彼の生きた平易な訳文が読者に抵抗なくよい読み物という感じをさらに与えている。実際に役立つおもしろい小冊子である。

（A 5, 196頁, 1985, ¥1,100,
医歯薬出版 刊）